

ポリクリを終えて

ポリクリを終えて

歯学部5年 東 浦 遥

新潟へ来て5年、すっかり大学生活にも慣れてきました。これまでは講義、基礎実習などが主でしたが、新潟大学では5年後期から臨床実習が始まります。その前に行う実習が臨床予備実習、通称「ポリクリ」です。正直なところ、4年生までは「ポリクリって何ー？」とか「病院でるなんて実感湧かないよねー」とか友達と言い合っているような状態でした。その頃、過去の先輩方が書いた歯学部ニュース「ポリクリを終えて」を検索して、ポリクリとは何か初めて知ったのを思い出します。今自分がその立場になって、少し大人になったかな、とも思います。

5年に進級すると、憧れの緑衣（5、6年が着用する診療着）を初めて着て、登院式に参加します。ここで「いよいよポリクリ始まるんだなあー」と実感、と同時に、今までに味わったことのない緊張感が襲ってきました。グループ単位で各診療科を回るのですが、病院の診療室へ行くのも初めて、生身の人間の口の中を触るのも初めて

なのです。そのため、今までは教科書でしか知り得なかったことも、実際に体験することでより頭に残り、理解が深まったと思います。

具体的には伝達麻酔（これが一番緊張した）「外斜線、内斜線を触知し翼突下顎縫線の間接点で、下顎の咬合平面より1cm上方を～」という長い文を覚え、シミュレーションを何度もしましたが、やっぱり一度やってみるともう忘れない気がします。私に針を刺すときに、緊張して汗をダラダラ流していた友達の顔も忘れられません。

内容が少なくあまり参考にならないような気がします、とにかく密度が濃く、勉強になったー！と感じる日々でした。

ポリクリを通して一番勉強になったことは、技術的なことはもちろんですが、なにより患者さんの気持ちになり、患者さん自身の体験ができたことだと個人的には思います。なかなかない機会だと思います。

最後に、恵まれた環境の中で勉強できるということをお忘れず、無駄にせず、これから続く臨床実習、国家試験もクラスの皆と一緒に乗り越えていけたらと思います。



筆者：左から3番目

ポリクリを終えて

歯学科5年 山崎良子

この原稿を書いている今は2015年12月。臨床実習開始から3か月ほど経ち、ようやく少しずつ外来の雰囲気にも慣れてきました。ポリクリを開始した5月に緊張と不安を抱えながら緑衣に袖を通し、登院式に臨んだことが遠い昔のように思えます。

今回「ポリクリを終えて」という題材で原稿依頼を頂きました。「ポリクリ」とは医学部、歯学部高学年における病院実習のことで、実習形式は大学によってまちまちですが、新潟大学歯学部では現在、5月から4か月の間、1つの科につき1日から1週間かけて実習を行い、全ての科をまわります。口腔外科の実習における採血や、麻酔科の実習における点滴及び下顎孔伝達麻酔といった、学生同士痛みや恐怖と戦った実習はもちろん印象に残っているのですが、今私が最もより深く勉強すべきであったと後悔している実習は、口腔外科における診断実習です。ここでは、学生同士

患者役、歯科医師役に分かれ、アナムネをとる練習を行います。アナムネとは初診の患者さんに対して実際の診察前にとる問診のことです。患者さんのお話を伺いながら、主訴、現病歴、既往歴、現症、口腔外所見、口腔内所見といった情報を、所定の用紙に誰が見てもわかる形で記入します。診断を下すために必要十分な情報を得るためには、自分の頭のなかに予想される病名を浮かべながら、関係するような質問を行わなければなりません。それには4年次までに学ぶ解剖、生理、病理、薬理といった基礎的知識を頭に叩き込んでおくことが必要です。実習当時はそのようなことは考えず、決まった項目をただ質問していました。しかし、臨床実習において実際に患者さんに了解を頂いてアナムネをとらせて頂いている今、必要十分な情報を得るための質問の構築に苦しみ、自分の知識不足を痛感しています。

ポリクリは実際に患者さんの診療を行う前に、自分の知識を総括し、臨床との関連を考える最大で最後のチャンスだと思います。これから臨む方々には、私のような悔いを残さぬよう、意欲的にポリクリに取り組むことを強くお勧めします。



筆者：上段右から2番目